

経営比較分析表（令和6年度決算）

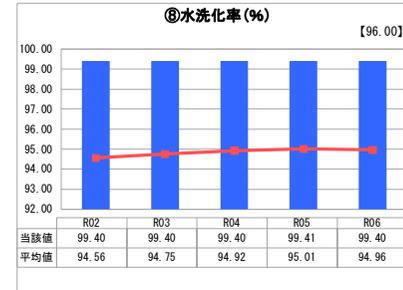
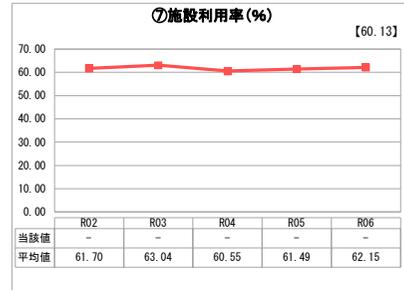
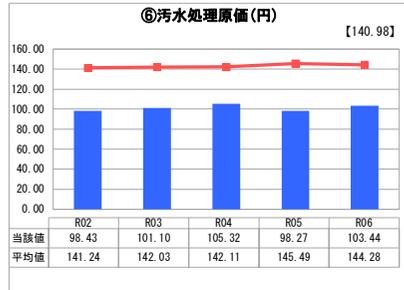
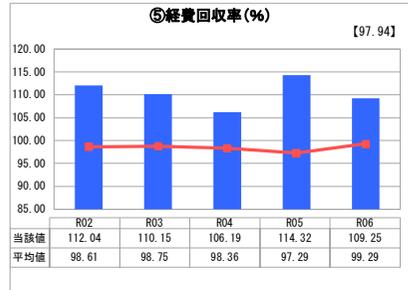
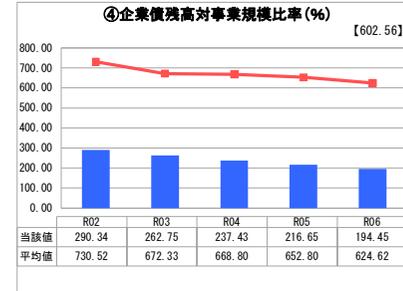
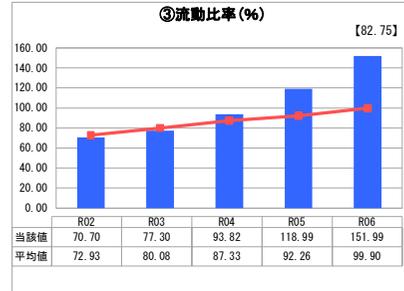
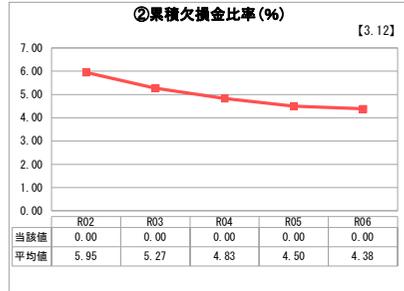
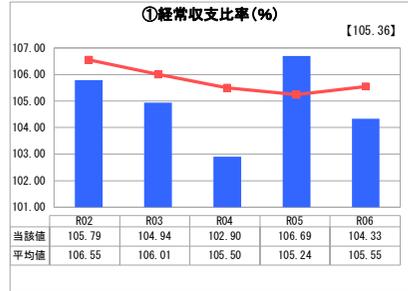
神奈川県 厚木市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.72	89.91	76.61	1,974

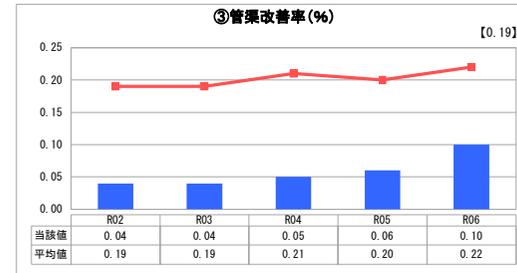
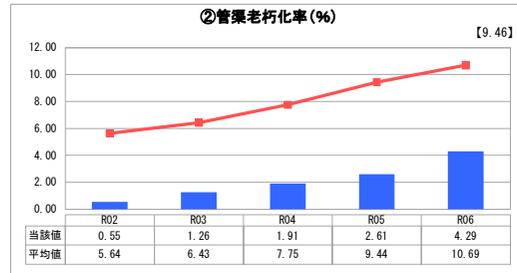
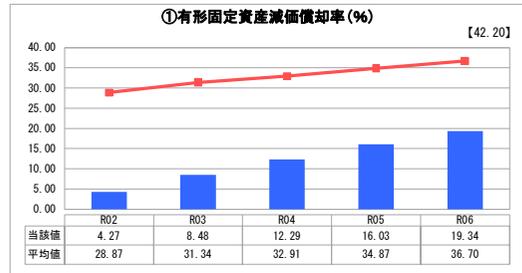
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
223,424	93.83	2,381.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
200,405	34.59	5,793.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度は、管路施設の修繕費や流域下水道管理事業費負担金の増加により、⑥汚水処理原価が5.17円上昇しました。また、①経常収支比率は2.36ポイントの減、⑤経費回収率は5.07ポイントの減となりましたが、下水道使用料等の収入が堅調であったことから、いずれの指標も100%以上となりました。

企業会計に移行した令和2年度以降、経常収支比率・経費回収率ともに100%以上を確保しており、累積欠損金も生じておらず、健全な経営状態といえます。

汚水管整備を進めていた平成初期の企業債償還が進み、④企業債残高対事業規模比率は22.20ポイント減少しました。

加えて、企業債償還額の減少に伴い、留保資金を蓄えられるようになったため、③流動比率は33.00ポイント上昇しました。

今後、管路施設の地震対策や老朽化対策を進めるための財源として、企業債発行額の増加が見込まれますが、将来の過度な負担とならないよう、投資の標準化と適切な企業債管理に努めます。

2. 老朽化の状況について

令和2年度から減価償却を開始したため、①有形固定資産減価償却率は低い値となっています。

②管渠老朽化率も類似団体平均値や全国平均を下回っていますが、中心市街地の管渠が耐用年数を超え始めており、上昇傾向が続く見込です。

管渠の老朽化対策としてストックマネジメント計画に基づいた調査を行い、調査結果に応じて必要な修繕や改築を実施しているため、③管渠改善率は低い値で推移しています。

全体総括

経営指標に多少の変動はありますが、良好な経営状態を維持できています。

本市では、昭和50年代に中心市街地以外の地域における下水道整備が本格化し、同時に、区画整理事業や民間開発による大規模な造成が行われており、当時整備された管渠が順次耐用年数を迎えます。

また、下水道施設の地震対策も急務となり、調査・修繕等の維持管理経費や改築・更新投資額の増加が見込まれます。

引き続き、予防保全型の維持管理や計画的かつ効率的な更新投資を進め、経営指標を活用した客観的な評価を行いながら、健全経営の維持を図ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。